

I. 広東省

1. 孫文生誕151周年記念式典の開催

●12日午前、広東省、広州市の各界有識者が広州市の中山記念堂で上記式典を開催。袁宝成・副省長が省・市政府を、劉日知・省政協副主席が省・市の政協を、郭漢毅・省党統一戦線部副部長が省党・市党の統一戦線部を、熊水龍・中国国民党革命委員会（民革）広東省副委員長が省・市の民革をそれぞれ代表し、孫文の銅像に献花を行なった（11月13日付『南方日報』）。

2. 各市レベルにおける革命聖地の訪問と「初心忘れず」の具体行動化

●10日午前、石奇珠・汕尾市党書記率いる同市党常務委員、市人代・市政協の責任者等が海豊県紅宮場を訪れ、「革命の旧跡を見学し、紅の遺伝子を伝承する」というイベントを開催し、党の革命の歴史を振り返り、革命の先達の崇高な精神を学んだ。続けて、石書記主宰の市党常務委員会議が行われた（11月13日付『南方日報』）。

●12日午後、李紅軍・茂名市党書記率いる同市党常務委員、市人代・市政協主席、市人代副主任等が滨海新区電城镇嚴家祠の中国共产党南路第一党支部（中共電白県支部）革命跡地を訪れ、その歴史的展示物を見学し、入党の誓いの言葉を復習するとともに、市党常務委員会議が行われた（11月13日付『南方日報』）。

●先頃、魯毅・仏山市党書記が先頭に立ち、同市党委員会・政府メンバー、市人代・市政協・各区の責任者が入党の誓いの言葉を復習した。続けて、魯書記主宰の市党常務委員会議が行われた（11月14日付『南方日報』）。

●13日午前、呂業昇・東莞市党書記率いる同市党常務委員、市人代・市政協の主な責任者等が広東東江縦隊記念館を見学し、入党の誓いの言葉を復習するとともに、市党常務委員会議が行われた（11月14日付『南方日報』）。

●13日午前、鄭人豪・湛江市党書記率いる同市党常務委員が遂溪県楽民鎮敦文村の黄学増故居を訪れ、入党の誓いの言葉を復習し、その場で市党常務委員会議が行われた（11月14日付『南方日報』）。

●14日午前、中山市党常務委員が南朗鎮翠亨村の楊殷故居を訪れ、先達の崇高な精神を学び、入党の誓いの言葉を復習した。続けて、その場で陳旭東・同市党書記が市党常務委員会議を開催した（11月15日付『南方日報』）。

●先頃、龐国梅・雲浮市党書記率いる同市党常務委員が烈士陵園の革命烈士記念館を見学し、入党の誓いの言葉を復習するとともに、市党常務委員会議を開催した（11月16日付『南方日報』）。

●17日午前、梅州市党常務委員が三河壩戦役烈士記念碑、葉剣英記念園を見学し、入党の誓いの言葉を復習した。続けて、譚君鉄・同市党書記主宰の市党常務委員会議が行われた（11月19日付『南方日報』）。

●17日午後、陳小山・陽江市党書記率いる同市党常務委員が、中国共产党陽江県党委員会跡地を訪れ、入党の誓いの言葉を復習するとともに、市党常務委員会議が行われた（11月19日付『南方日報』）。

3. 馬興瑞・省長が省金融サービス弁公室、経済・情報化委員会を視察

●13日、馬興瑞・省長が省金融サービス弁公室、経済・情報化委員会を訪れ、第19回党大会の精神を監督・指導・学習・宣伝し、特に「経済システムの現代化」、「金融体制改革の深化」等に関する党大会の重要な政策決定・手配について検討・実行した（11月14日付『南方日報』）。

4. 梅州 - パタヤ直行便が就航

●13日、タイのLCCであるノックエアーによる梅州 - パタヤ直行便が就航した。これにより、梅州空港から東南アジアへの直行便はジャカルタに次いで2本目となった（11月14日付『南方日報』）。

5. 第5回世界客家ビジネスマン大会の開催

●14日、梅州市で上記大会が開幕し、李希・省党書記、張志軍・國務院台湾事務弁公室主任、黃華華・全人代華僑委員会副主任委員（元省長）が開幕式に出席。葉選平・元全国政協主席（元省長）が祝賀メッセージを送り、馬興瑞・省長、郭軍・國務院華僑事務弁公室副主任が開幕式で講話を行なった。同大会には世界28か国・地域、国内20の省・直轄市、45の地区レベル以上の市から1000人余りの客家ビジネスマンや来賓が集まった。これは広東省の2017年の重要な政務活動の1つである（11月14日、15日付『南方日報』）。

6. 李希・省党書記による視察

●14日、李希・省党書記が梅州市梅江区、梅県区を訪れ、葉剣英記念園を見学し、末端の社区、新区の共同溝建設現場、特色ある小さな町に深く入り込み、同市の経済・社会発展状況に対する理解を深め、第19回党大会の精神の学習・宣伝・貫徹に関する指導・視察を行なった（11月16日付『南方日報』）。

●16日、李希・省党書記が珠海市香洲区獅山街道の社区、香港・珠海・マカオ大橋の建設現場等を視察し、同市の経済・社会発展状況、都市計画、交通インフラ建設、末端の党建設状況に対する理解を深め、末端による第19回党大会の精神の学習・宣伝・貫徹を指導した（11月18日付『南方日報』）。

7. 農村の商業銀行を全面的に急いで立ち上げる業務にかかる動員大会の開催

●15日、林少春・常務副省長主宰の上記大会が開催され、馬興瑞・省長が出席するとともに講話を行い、次のように強調した。第19回党大会、全国金融業務会議の精神を真剣に学習・宣伝・貫徹し、改革の難関を攻略すべく力を入れ、金融リスクの効果的な予防・コントロールを行い、農村・農業の発展を力強くサポートし、2018年末までに農村信用合作社を農村商業銀行に改めるという任務の全面的な実現を確保しなければならない（11月16日付『南方日報』）。

8. 第3回世界広東人懇親大会等の開催

●17日、江門市で上記大会ならびに2017中国僑都（江門）華人フェスタが開幕し、李希・省党書記、羅富和・全国政協副主席、朱小丹・全人代財経委員会副主任（元省長）が開幕式に出席。馬興瑞・省長、譚天星・國務院華僑事務弁公室副主任が開幕式で挨拶を行なった。2020年に豪州シドニーで第4回大会が開催される（11月18日付『南方日報』）。

9. 省党常務委員会議の開催

●17日、李希・省党書記主宰の上記会議で、国家監察体制改革の試験地区を推進・展開するための動員・手配に関する全国テレビ電話会議の精神を伝達・学習し、広東省がそれを貫徹・実行するための意見について検討した（11月18日付『南方日報』）。

10. 広東・香港協力連絡会議第20回会議の開催

●18日、馬興瑞・省長、キャリー・ラム香港行政長官が主宰し、香港で上記会議を開催するとともに基調発言を行い、林少春・常務副省長、張建宗・香港政務長官が両地域の協力を振り返って、発言を行なった。同日、「中国本土と香港が広州・深圳・香港高速鉄道の九龍駅に「一地両検」を行う出入境管理所を設立することに関する協カスケジュール」が署名された（11月19日付『南方日報』）。

※一地両検：香港と中国本土の出入境審査を1か所で実施し、本土の入境管理官がその手続きを行う制度。

II. 広州市

1. 第10回広州国際幹細胞・再生医療フォーラムの開催

●11日、上記フォーラムが開催され、温国輝・市長、張亜平・中国科学院副院長、裴鋼・中国科学院院士、ルドルフ・イエーニツシュ米国科学アカデミー会員、蘇国輝・中国科学院院士、王東・副市長が「広州再生医療・健康ラボ」のプレート除幕式を行なった（11月13日付『広州日報』）。

2. 任学鋒・市党書記が广汽集団を視察

●15日、任学鋒・市党書記が广汽集団を訪れ、第1生産ラインを視察し、企業党組織幹部・従業員に向けて、第19回党大会の精神を宣伝・講演した。視察後、任書記が座談会を開催し、グローバルな競争力を備えた世界一流企業を築かなければならないと述べた（11月16日付『広州日報』）。

3. 劉悦倫・市政協主席が露エカテリンブルク市副市長一行と会談

●15日、劉悦倫・市政協主席が広州市の国際友好都市であるロシアのエカテリンブルク市副市長一行と会談し、両地域は引き続き意思疎通を強化し、共に中国・ロシア両国の発展、世界平和、人類の進歩に対し、更に大きな貢献をしていきたいと述べた（11月9日付『広州日報』）。

4. 国際金融フォーラム（IFF）第14回グローバル年次総会の開催

●18日午前、広州市で上記フォーラムが開催され、梁振英・全国政協副主席（前香港行政長官）、ケビン・ラッド元豪首相兼IFF主席、韓昇洙・前韓国首相兼IFF共同主席、シャウカト・アジズ元パキスタン首相兼IFF共同、鳩山・

元首相兼 I F F 顧問委員会主席，馬建堂・国家行政学院常務副院長，任学鋒・広州市党書記，陳雲賢・省政府党組織メンバー兼 I F F 副主席，温国輝・広州市長等が出席。同フォーラムは本年以降，毎年，広州市で開催されることが決まった（11月19日付『南方日報』，『広州日報』，20日付『南方都市报』）。

※ I F F：2003年に北京市で設立。I F F グローバル年次総会は F 20 サミットとも呼ばれている。

Ⅲ. 深圳市

1. 第19回党大会の精神の学習・貫徹関連

●14日午前，全市局長クラス主要指導幹部が第19回党大会の精神を学習・貫徹するための研修の開講式ならびにガイダンス報告会が開催され，王偉中・市党書記が出席するとともに講話を行なった。陳如桂・市長が開講式を主宰（11月15日付『深圳特区報』）。

●15日午前，王偉中・市党書記が市党理論学習チーム拡大学習会を主宰するとともに講話を行い，省党委員会の統一手配に基づき，李惠武・省党宣伝・講演団メンバー兼省政府発展研究センター副主任が党大会の精神を学習・貫徹するための報告を行なった（11月16日付『深圳特区報』）。

2. 深圳国際仲裁院が米ロサンゼルスに国際仲裁センターを設立

●先頃，深圳国際仲裁院（S C I A）は米国ロサンゼルスに，中国の国際商事仲裁機関としては初となる海外仲裁センターを設立した。これにより，今後，北米地域の国際商事仲裁事件は裁判所での審理に近い形で行うことができる（法的な拘束力を持つ）ようになる。これは中国の商事仲裁機関の「海外進出」を示すとともに，「中国ルール」を更に高次元の国際競争に参加させることも意味している（11月15日付『南方日報』）。

3. 第19回中国国際ハイテク成果交易会（高交会，中国ハイテク・フェア）の開催

●16日，上記交易会が開催し，李希・市党書記，万鋼・科学技術部長，周濟・中国工程院院長，馬興瑞・省長，羅文・工業・情報化部副部長，ベルギー，リトアニア，フィンランドの政府要人等が開幕式に出席し，愈建華・商務部副部長，王書記が挨拶を行なった。陳如桂・市長が開幕式を主宰（11月17日付『深圳特区報』）。

●16日午後，エアバス社と深圳市投資拡大署が協力覚書に署名し，深圳市はエアバス（中国）イノベーションセンターの誘致に成功した。署名式の前に，陳如桂・市長がポール・エレメンコ・エアバス C T O（最高技術責任者）一行と会談し，双方は署名式に立ち会った（11月17日付『深圳特区報』）。

●17日，上記高交会で，「科学技術＋金融，サービス新時代」をテーマとする2017第1回中国広東・香港・マカオ・ベイエリア・フィンテック・サミットフォーラムが開催された。同サミットフォーラムは市科学技術イノベーション委員会，市金融発展サービス弁公室の指導の下，南山区政府，米国企業成長協会（A C G）が主催した。同業界の有識者たちは金融分野のイノベーション発展，広東・香港・マカオ・ベイエリアの融合発展，自由貿易港の発展等について建設的な意見を出した（11月18日付『深圳特区報』）。

4. 国家衛星応用製品品質監督・検査センター戦略的協力署名式の開催

●17日午前，上記署名式が行われ，福田区政府，航空宇宙五院514所（中国宇宙技術研究院北京東方計量試験研究所），北斗衛星情報サービス有限公司が引き続き上記センターの建設で協力していく協定に署名した。陳如桂・市長，孫家棟・中国科学院院士（2009年度国家最高科学技術賞受賞者）が署名に立ち会った（11月18日付『深圳特区報』）。

5. 2017深圳軍民両用ハイテクサミットの開催

●17日，上記サミットが開催され，全国の軍民融合に関連する政府部門，学者，リーディングカンパニー等の代表が集まり，軍民融合を深めるための発展の趨勢・発展モデルについて検討した。金亜秋・中国科学院院士，艾学峰・副市長等が出席。同サミットでは130余りの優秀なプロジェクトが選ばれ，マッチングが行われた（11月18日付『深圳特区報』）。